

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 3 月 14 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	山崎 聡
研究課題	明示的遂行文の遂行動詞への進行形の拡がり				
研究キーワード	明示的遂行文、進行形	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
1. 研究成果の概要 明示的遂行文には単純現在形が用いられるのが原則とされるが、代わりに進行形が時に用いられることがあることが一部に指摘されてきた。本研究では De Wit らの研究を参照しつつ、異なるクラスの遂行動詞への進行形の拡がりの様子を通時および共時の両面から（予備的）調査・考察を行った。その結果、De Wit らの知見が確認された一方、かられの主張とは矛盾したり、また指摘されていないことも明らかになった。また、調査結果について部分的ではあるがその説明を試みた。 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 【論文（査読あり）】 Changes in <i>I Tell You</i> and Other Formulaic Explicit Assertive Performatives. 『近代英語研究』39 号, 39–66. （この論文は実際には 22 年度の研究成果となります。23 年度のものは論文にまとめ 5 月末刊行予定。） 【著書・論文（査読なし）】 【学会発表等】 3. 主な経費 書籍、論文、DVD、機材（リージョンフリーDVD プレーヤー、モニター）の購入に充てた。 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） （本文は <u>2 ページ以内</u> にまとめること）					